

令和8年7月教育委員会定例会会議録

日時 令和8年8月5日（水）

午後3時00分開会

場所 波佐見町役場 第4会議室

出席者：森田教育長、山下委員、馬場委員、
松尾委員、富木委員

事務局：川田指導主事、林田次長

・ 出席者確認 全員出席

1. 会議録署名委員氏名

山下委員、松尾委員で了承されました。

2. 報告事項

（1）教育委員会事業報告について

（2）学校給食センター事業報告について

（3）全国・長崎県学力調査の結果について

（4）夏休みこども体験講座について

（5）中体連の結果について

（6）その他

3. 議 題

（1）準要保護（就学援助）の認定について

新規申請 2件（経済的理由 2件、児童扶養手当 0件）

継続申請 2件（経済的理由 1件、児童扶養手当 1件）

（2）持ち寄り議題について

4. そ の 他

（1）公共施設の視察について

・ 日程調整 11月 日（ ） ： ～

（2）その他

5. 会議録の加筆修正

【会議録】

1. 開会および会議録署名委員の指名
2. 報告事項
3. 議 題
4. その他

森田教育長

1. 開会および会議録署名委員の指名

それでは定刻となりましたので、ただいまから、令和8年7月、そして8月のひと月にまたがる部分の定例教育委員会を開催いたします。会議録の署名につきましては、山下委員様、松尾委員様よりお願いいたします。会議録の加筆修正は一番最後に回すことにして、3の報告事項1について次長の方から報告をお願いいたします。

林田次長

2. 報告事項

(1) 教育委員会 7・8月事業報告、及び8・9月予定について

私の方から教育委員会並びに学校給食センター事業の報告を行います。順を追って日程と事業名のみ報告提案をさせていただきます。

【資料により説明】

林田次長

(2) 学校給食センター 7・8月事業報告、及び8・9月予定について

学校給食センターに伴う7・8月事業報告、及び8・9月予定について、別紙資料をお開きください。

【資料により説明】

森田教育長

8月、9月の教育委員会並びに給食センターの活動についてお尋ね、ご質問、ご意見等はございませんでしょうか。もしございましたら最後にでも結構ですのでお聞かせください。次、3番目の全国・長崎県学力調査の結果について川田指導主事お願いいたします。

川田指導主事

(3) 全国・長崎県学力調査の結果について

資料をお開けください。まず表の見方ですが、今年の大きな字がそれぞれの学校の正答数、それから各項目における正答率となっております。それから細めの数字が、上段が長崎県との比較、下段が全国との比較となっております。なお、マイナスおよび50点未満の数値についても赤で示しております。

一番右上をご覧ください。波佐見町全体としては、小学校の国語が62、算数が57、中学校が58、数学は56となっております。それぞれの差ということで、小学校につきましては、町全体では全国・県を上回っておりますが、中学校に関しては、数学の県比較を除いて全て全国を下回っている形となっております。左側は各学校の成績等についてですが、上段が国語、下段が算数・数学です。まず各校の特徴が出ておりまして、東小学校は国語に関しては全国・県を含めて大きく落としている代わりに、下の算数を

見ると、逆に東小学校は算数が全国・県よりも大きく伸びています。逆に南小はその反対で、国語が県・全国と比べても大きく上回っている一方で、算数の伸びはあまりなく、ちょうど中間を中央小がいつているという状況です。波佐見中学校につきましては、先ほども申しましたが、全体的には厳しい状況となっております。真ん中あたりを見ていただけたら分かりますが、小学校に関しては、国語では「書くこと」の領域で大きくポイントを落としております。

算数・数学に関しましては、下の方を見ていただくと小学校は同じく「変化と関係」、関数的なものです、それについての領域が苦手というふうになっております。中学校に関して領域で言いますと、特に数学で図形関連がポイントを落としているということになります。なお、ここには載せておりませんが、英語に関しまして、中学校は全国平均を下回っているということで、載せてなくて申し訳ございませんが、全体的な傾向としては、小学校はプラス、中学校がマイナスということで、これまでの「小学校の遅れを中学校が補う」という形とは逆の状況が見られます。

県学力調査の括弧の部分がございませんので、町全体ということで載せております。国語に関しましては、全体が 53.3 ポイントということで、これにつきましては長与町と時津町に続いて 3 番目の成績ということになります。算数につきましては 73.7 ポイントということで、これは長崎県で 1 位という状況になっております。中学校ですが、国語 53.8 ポイント、数学 39.9 ポイントということで、これは逆に県の中でも下から数えた方が早いという状況で、先ほどの全国学力調査と似た傾向にございます。いずれにしても、小学校ではある程度結果として改善が見られるのかなと思われる一方、中学校はなかなか厳しい状況が続くような、そういう傾向が見られます。原因としてはいろいろ考えられるのかなと思われそうですが、小学校に関しましては授業改善も含めて少しずつ効果が現れているかなという一方、中学校に関しては教科担任制なので、担当される先生方が意識を変えないとなかなか授業改善まで繋がらないのかなという厳しい面がございます。

森田教育長

小学校 5 年生、中学校 2 年生を対象にした長崎県学力調査、小学校 6 年生、中学校 3 年生を対象にした全国学力・学習状況調査の結果について報告をいただきました。報告ありましたように、小学校におきましてはそれぞれ平均を上回っているということ、逆に中学校がそれぞれ県または全国の平均から大きく下回っているものがあり、国語・数学・英語ともに全国には届かなかったという厳しい現状があります。途中ありましたように、やはり教科担任制でおそらくほとんど 1 年から 3 年まで持ち上がる状況にありますので、授業力・指導力を変えない限りは同じかなと思っております。この前の学校訪問のときの標準学力調査の 4 月・12 月の結果を見たときに、小学校は 4 月と 12 月では 12 月に明らかに伸びが見られたのですが、中学校は全ての教科において横ばいでした。ということは同じ先生ですから、結局 4 月も 12 月も変わらないということがそのままこの全学・県学に

もイコールになってしまっているところがあるというのが、やはり中学校を少し厳しく振り返っていただいて、具体的な手立てを打っていかないといけないと思っています。先生方の力量等々普段の様子を見る時に、指導力が不足している先生とは言えないとは思ってはいるのですが、波佐見の子どもたちが逆に大人しかったり素直だったりするものですから、少し切磋琢磨するところが足りない部分も正直あるのかなと思っていて、ぜひ波佐見の子どもはきちっと鍛えていただければ必ずや伸びていきますからということで、先生方にはお願いをしているところです。

全国・長崎県学力・学習状況調査の結果についてご質問、ご意見、お尋ね等がありましたらお願いいたします。

松尾委員 質問が二つあります。英語の結果は出ていないのでしょうか。口頭で言えないでしょうか。

川田指導主事 数値はございません。ただ、このスコアが違っていきまして、3桁になっています。例えば波佐見で言えば479ポイントとか、全国が511ポイントとかそういう感じで、小数点で考えれば47.9と51.1みたいに考えればいいのですが、割合的には全国をこれでいくと4ポイント下がっていたかなというふうに思います。

松尾委員 もう一つは、これは点数でしょうか。

川田指導主事 平均正答率と書いていますように、点数と考えてもいいかなと思います。ただ、一つ波佐見町全体でいくと62ポイントなのですが、国語を見ると各校の正答率を単純に計算するとちょうど60になっています。だから、若干ずれがあるのはどうしてなのかなと思ってはいるのですが、一応データとして出てきた数値をそのまま載せております。

森田教育長 英語が少し領域によって検査の仕方が変わったところもあるので、もう少しそこら辺を精査しながら報告をさせてください。他ございませんか。

馬場委員 これはもう1回ありますよね。年に2回、1回だけでしょうか。

川田指導主事 全国学力調査・県学力調査につきましては、毎年4月ということで1回だけです。それとは別に標準学力調査というのを先ほど教育長がおっしゃったように、1学期と12月に年2回やるということで、その伸びが今の学年で見られるということにはなります。

森田教育長 小学校2年生以上全員に受験させて、その子の伸びを、実際は中学3年生までその後の伸びあるいは良さ・課題を経年で観察できるようになったこと、先生方の指導力というのも見えてくるかなと思っています。

4月は前の学年の理解がどこまで定着しているかということ进行调查し、

12月または1月にする部分は、今の学年の勉強がどこまで理解していますかということになりますから、現担任の指導力が問われているということになって、それをスパイラルに続けてやっていきますからということであれば、いかに全ての先生方が県学や全学に関わっていけば、今までは5年生の担任の先生の評価になったり、6年生だけではなくて1年生からみんなでの課題については取り組まなくてははいけませんよねという部分での標準学力調査の意義というのはきっとあるのだろうと思っていますので、全ての学年の先生方が一緒になって、5年生・6年生、あるいは中学2年生・中学3年生の結果としてそこに数値化されたものがあるんだよという自分事意識を持ってもらいたいというのも、標準学力調査を2回実施する大きな意義にはなっています。小学校には少し改善傾向が見られたんですが、これまで本町の救いであった中学校が少しここ一、二年厳しい結果にあるのはなぜなのかなという部分を真剣に考えていかななくてははいけなかなと、生徒指導的なものについては本当に落ち着いたとても良い学校であるにも関わらず、学力がなかなか思ったほど定着をしていない、向上していないという、その理由についてはみんなで、特に中学校、あるいはもしかしたら小学校にこういう力をつけてほしいという小中学校からの意見要望等もあるかもしれませんので、町内挙げて改善に繋げていかななくてははいけなかなということを思っているところです。また後ほどご意見お聞かせください。4の「夏休み体験講座」について報告をお願いします。

川田指導主事

資料は特にございません。今年度20講座やっております、残り社協の分も含めて7講座、ほとんど残っております。今のところですが、昨年度と比べて講座数が減っている関係もございます。昨年は申し込みが650ほどありましたが、今年は350ほどということで300名ほど減っておりますが、いずれにしても参加した子どもたちはものすごく楽しそうに満足げに帰っております。

今年やっている中で、まず一つ残念だったのが、昨年23名の参加がございました県立大学シーボルト校のプログラミング教育とか、それからIoTを使った教育等の体験講座が9名でした。追加募集をしたのですがなかなか集まらなくて、せっかくの貴重な体験ができたのにとということで、残念だったなというふうに思っております。逆に昨年も今年も盛況だったのが、魚のつかみ取り、それから昨日ございましたピザ作りですね、どちらも60名以上、ピザに関しましては72名の参加があつてとても盛況でした。

大きな二つ目の課題といいますか来年に向けてなんですが、講座によって担当してくださったこれまで講師として協力をしていただいた方が年齢的なものとか、それから諸事情がございまして、来年厳しいなっていうふうな声ももう上がっておりますし、今年度お願いするときも今年は協力していただく講師の方をどうするかという問題ですね。それと先ほども述べました、集中する講座と集中しない講座がございますので、特に負担感というところで、集中する講座の講師の方の負担が大きいかなというふうにありますので、それを改善していくという方向を来年度以降、持続可能な

講座にしていくためには必要ではないかなというふうに今感じているところです。

森田教育長 私の方からの資料に一応一覧化したものを付けていますので後ほどご覧になってください。先ほどのシーボルト大学とのことについてはこの前長崎新聞に載っていました。波佐見の子供が云々ということで、新聞記事にも掲載されておりました。昨年度に比べたら人数が少なくなったのは、一つはコロナ禍が主催をした事業が昨年・一昨年とあったのですが、こちらも多くの子供が出ておりました。ここが今回できなかったことと、昨年度特にピザとか魚のつかみ取りが倍近くいたのですが、安全管理上とか、講師の先生方の負担感がありまして、この間までは結構野放図に人数をフリーにしたのですが、そこはよろしくないだろうということで上限を設けたという部分もありましたので、人数的に減ったような感じはしますけれど、活動内容的には充実しておりますし素晴らしい活動ではないかなということで高く評価できるものでありますので、今、川田指導主事がおっしゃったような課題について、次年度以降研究検討を重ねる必要があると思っています。

夏休み体験講座についてご質問、お尋ねがありましたら受けます。

それでは中体連の結果について報告をお願いします。

林田次長 それでは報告事項の中体連の経過についてでございます。これは5月30日土曜日に行われました球技と武道の結果一覧となります。内容につきましては後ほどご覧いただければと思っております。これは6月6日土曜日に行われました男女それぞれの陸上競技の結果を掲載しております。これも後ほどご覧いただければと思っております。私の方から以上です。

森田教育長 中総体武道・球技、そして陸上の結果について報告がありました。成績的にはかなりまた頑張って多くの優勝旗を持ち帰ってきたところです。個人的にも九州大会等々に出場した子もおりますし、卓球の増田くんというのが個人的にも九州大会に参加をするということと、吹奏楽部もこれも読売新聞にも特集を組んでいただいたのですが、まさに波佐見中学校、川棚中学校、東彼杵中学校合同のクラブが、県北地区予選で見事金賞を取り、県代表になって先週の日曜日にアルカスで県大会が行われました。17団体が県大会に出場をし、優秀賞・金賞をまたいただきましたけれど、九州大会出場の上位3校には入れなかったということだったんですけれど、3校が合同している大変厳しい状況の中でということで高い評価を受けて、優秀賞をもらって上位入賞を果たすことが出来ました。両方とも聞きに行ったのですが、決して金賞を取った小浜中学校に引けを取らないような、特に自由曲につきましてはですね、とても素晴らしいなという思いを持ちましたし、人数も今50名を超して、ある意味また盛り上がって生きているところではないかなと思いますから、今後またマーチングの方もありますので、更なるレベルアップを期待しているところでございます。

報告事項 1 番から 5 番までについて、改めてご質問、ご意見、お尋ね等ありましたら受けたいと思います。

山下委員 部活に入っていない生徒の応援は最近どのようなになっていますでしょうか。

森田教育長 まず流れから言うと、陸上大会については、以前は東彼杵町のそのぎシーサイド公園に全ての学校が選手・応援団も移動をしていたのですが、もうそれは数年前からなくなっています。陸上部の関係者の生徒のみが参加をするようになっていました。ただその部分、他の子供たちは勉強をするわけですね。今年度から中総体の実施日が土曜日になりました。今まで武道競技は日曜日に行って、陸上が平日だったのですが、両方とも多くの保護者の方の応援等々も含めて土曜日に実施をしましょうという方向になりましたので、同時に応援する子供たちの一斉応援はもう 3 町ともしないというよりも、全県的にもうやっていません。関係する生徒のみがその会場に行って技を競い合って、他の子供たちは土曜日ですから結局他の子供たちが休みになるわけですね。行ける人、例えば野球とか卓球とかいうことは応援行ける人は行きなさいという形になっていると思いますから、週休日・土曜日に開催されることによって、選手のみ参加をし、他の子供たちは平日通常の休みとなるような取り扱いに今県内全体、そういう方向に移行している状態です。他ございませんか。

それでは、4 の議題について提案をお願いします。

それでは、レジュメの裏面にある 3 番の議題 1 について提案をお願いいたします。

3. 議題

(1) 準要保護の就学援助の認定について

林田次長 それでは議題 3 の (1)、準要保護の就学援助の認定についてご説明いたします。

今回は新規申請が 2 件、経済的理由が 2 件となっております。次に、継続申請、経済的理由が 1 件、児童扶養手当が 1 件ということとなっております。別紙でお配りしているものをご覧ください。1 枚目にあるのが新規の経済的理由についてでございます。ご審議いただければと思います。

詳細説明（別紙資料の確認）

森田教育長 別冊資料の「経済的理由による継続」1 件を除き、認定基準値をすべて下回っているため、継続として認定してよろしいでしょうか。（委員一同、了承）

それでは、持ち寄り議題につきましては後ほど行うこととし、その他の

学校訪問についてお願いいたします。

3. 議 題

(2) 持ち寄り議題について

4. その他

(1) 公共施設の視察について

森田教育長 日程調整については、11月ごろを予定して後日日程調整を行うこととします。

(2) その他

学校訪問について

森田教育長 それでは学校訪問について報告をお願いします。

川田指導主事 今回1学期の学校訪問についてそれぞれまとめております。昨年度と一つだけ変えているのが、南小の方にはないのですが、東小学校の方を見ていただいたら分かりますが、校長の学校経営方針の後に皆様からいただきました指導、講評、意見交換を全部載せております。

各委員様から、それから教育長を含めて話があったのを載せております。ただ皆様の話し言葉を私がまとめたので、若干ニュアンスが違ったり、ちょっと違うずれ込みがあるかもしれません。あと最後の方は同じ、皆様からいただきました意見記述していただいたものをそのまま載せております。そこだけ若干の違いがありますが、各校で指導講評いただいた分につきましてはそのまま載せております。特に報告なので何か全体のまとめというのはございませんが、ありがとうございました。

なお、2学期の学校訪問について私の方からもこの前の校長会があったので話をしたことを申し上げます。2学期の学校訪問につきましては、今年度は中央小学校と南小学校が対象となっております。昨年度までの様子をお聞きしたところ、各学校で代表授業的なもので提案している先生が授業なさって、それに関して各校で研究授業に関する意見会があって、そしてその後に委員の皆様からのコンペや指導等があったというふうにお聞きしておりますが、その一方で先生方の研究協議を見てもなかなかそれに関連しての発言がなかなかしづらいというようなことを聞いておりますので、委員の皆様からお話がありました意見交換的なものをそこに入れたらどうだろうかということで、それが終わった後に委員の皆様から講評や指導等をいただく、そういう形にできたらいいかなというふうなことで、この前の校長会で提案いたしました。大体授業の後に先生方にも参加していただくことを考えれば、5校時に授業参観でその後に皆様方との意見交換を行って、最後に指導助言等も含めたまとめをする、そういう方向で2学期の学校訪問は考えております。なお二つの学校には、必ずしもそれに縛られることなく、例えば全員の授業を見たいということであればそれでもいいかと思えますし、それから意見交換をするにしても2校ともそれに

しなくてもいいのかなというのがありますので、一応中央小と南小の方にはそれぞれの学校の考えをお聞かせくださいということで、決定ということではなくて、あくまでも提案ということで示しております。もし皆様の方からも、2学期の学校訪問に関してこんなふうにしたらどうだろうかというご意見をいただければ助かります。

森田教育長

1学期の定期訪問のまとめと、2学期は中央小学校と南小学校が該当校となっていますので、その訪問のあり方、利用についてということで、先日校長会でも確認をし、基本的には授業参観をしながらもその後の研究協議ではなくて意見交換という場を設けさせていただいて、先生方と教育委員さんたちがテーマごとにあるいはフランクに意見交換をするということを中心にしたらいいのではないかとということで、それを2校ともするかどうかはもう学校にお任せしましょうということで、今そういう提案をして校長会議の中では了解をしたのですが、参加の人数は全員参加になるのか、例えば学年代表とかそういう形になってくるとは思いますが、そこはもう学校にお任せしようかなとは思いますが、もし学校訪問の中でこういうやり方でぜひ行ってほしいという教育委員の皆様からのご意見、ご要望があればお聞かせください。

馬場委員

私も提案をさせていただいた一人ですけども、全体でやるっていうのは大変なので代表者の方との意見交換がいいと思います。子供たちの学校での様子や地域での様子、保護者との事などなど先生方からの意見を聞きたいと思います。

あとは学校がどういうふうになれるか。どうしても学校訪問となると授業のこと、あるいは学校の設備のこと、そこら辺だけで走ってしまうことが多いので、そういう子どもの生活の様子とかそういったものがね、1年にいっぺんはちょっとした機会があればいいのかなというのがあるので。そこら辺はお任せしたいと思います。

森田教育長

今配りましたいつも使っている校長会の部分から確認したいことが、教育委員の皆様方にご意見等々いただきたいことがありますので、少し時間を取ります。まず議事録についてですが、3日の日に開催をしたものがあります。青字の部分がお互いに意見を交換したり共有をしたものとなりますので、学校全体は落ち着いてはいるのですが、あと少し詳しくご説明しますと、学校でトラブルが少し起きましたので、そういうところの部分とか、どうしてもなかなか保護者の対応で難しい方がいらっしゃるよねっていう部分で、基本的に生身の人間が生身の人間と関わるわけだから難しいよねというところをお互いに確認をし合っています。

真ん中あたりの川田指導主事の部分は、先ほどの全学・県学の結果を受けての報告と、学校訪問についてこういうふうなやり方ということで、3番目の「令和の日本型学校教育」につきましては、東小学校を拠点校として町内4校が協働的な学びについて研究を深めましょうというところの指

定を受けていて、今年度フォーラムを開いて取り組みの発表を行うので、ぜひ協力を願いたいということを書いているところです。3番の人事関係はそこに書いている通り、特に今回は産休者とか病休の延長とか、そういうふうな方がいらっしゃるので、早め早めに代替についてなかなか厳しい状況ではありますけれども見つけていきながら、学校に支障がないように進めていきたいと思いますという確認をし合ったところでした。次、裏に行きまして、もう1学期ヒアリングは先々週終わりました。いよいよ人事作業が動き出してきました。まだ3カ月しかたってないんですが、次年度の人事異動の作業が始まったということになります。

I C T関係で特にその「ミライシード」というデジタル教材を予算化して取り組んでいます。大変有効な学習ツールになっていますので、積極的に関わっていこう、使っていこうということです。業者の調査では波佐見町の子供たちは平均値よりも多く使っているのですが、先生方の利用頻度が平均値よりも低いという状況が報告されましたので、これを受けて、先生方の現職教育、ミライシードの活用について研修会を開いて、もっと積極的に活用をお願いしたいというお願いをしているところです。

「テラトーク」というのはA Iによる英会話の日常化を図るツールになります。中学校の方に予算化をし、今年度より取り組んでいるところです。県内では長崎市と波佐見町と壱岐市が取り組んでいる。県が推奨している事業ではありますので、有効活用し意義あるものになっていければいいかなと思っています。真ん中の4番、先ほど学力向上推進委員会についての、県学・全学の結果についての感想をそこに載せていきながら、その下の段に、I C T活用推進委員会のミライシードの活用も含めて、学力向上に繋がっていないのであればもっと連携を図っていかなくてはならないということで、次の推進委員会にはそれぞれの会長さんが相互に参観をすることによって、協働した歩みができるように改善を図りましょうということの話し合いをしたところです。

学校運営に関する営繕修繕については、昨年度の分を積み残したのものもありますし、積極的に今年度の予算の中で進めているところがあります。ご存知のように今、体育館等々はL E Dの工事を行っております。空調関係は年明けてから、1月末には完成する予定で、小学校・中学校の全ての屋内運動場あるいは武道場も空調化が図られるようになります。バリアフリートイレについてもおそらくほぼ終わっておりますし、そこに書き出しているものは完成あるいは完成予定ということで書かせていただいているところです。「子ども110番」というところの部分は、これは資料を添付しております。この資料とその前にある一覧の部分ですね。「子ども110番の家」ということでの資料と地図の部分です。これは以前、業者の方が「いかのおすし」という合言葉のもとに校区ごとの110番の家や目印になる建物等をマップ化することによって、子供たちの健全育成あるいは避難場所等々について子どもたちはもちろん地域の方々にも、保護者の方にも十分把握をしてもらおうということで取り組んでいたことが、コロナ前後あたりから少しおろそかになっていて、無くなっていたり配布がもう終わって

いたりしたところもありましたものですから、元あったデータを新しいバージョンに教育委員会社会教育班を中心に作成をし直して、東小学校、中央小学校、南小学校ごとのこのマップを今回リニューアルした形で作成をいたしました。この資料をもとに、2学期から各家庭に配布をし、110番の家を明示化することによって避難場所であったり、緊急的なものの支援をいただくような取り組みを行っていきたいと思います。中学校につきましても、2年前の議会で中学校の方にもその共有を図っていただきたいたいというお話がありましたので、このデータについて中学校にも送り、中学校の方の活用も期待をするところです。「子ども110番」の取り組みについて説明をしました。

波佐見町表彰について、11月に表彰を行っていて、今回表彰規定が少し変わって現職の方も受賞対象になるというような大きな転換になったのですが、やはりそれぞれの団体、それぞれの活動の中でやはり年功的なものがあるのではないかとということで、その推薦母体でできれば年長者の方々から順次行っていった方がいいのではないかとということで一応確認はしております。

学校関係でいうと、ボランティアさんであったり、ゲストティーチャーとして長年関わっていただいている方々を積極的に推薦してほしいということで、これまでの受賞者の方については一覧化したものを各学校に配布をし、現在よく学校にお世話をいただく方がいらっしゃったら名前を挙げてくださいということをお話したところです。

新ALTの2名については、先ほど紹介をいたしました。

「ゆるバース」について、この「はちやまる」のゆるキャラコンテスト、昨年度取り組みとして、全国で22自治体中2位という評価をいただいて、今年度もそのゆるバースさらにコンテストに取り組んでいます。8月・9月の2カ月間で取り組んでいるのですが、小学校・中学校の子供たちにも参画もらえないかなという担当課からの依頼もあり、校長会の中でできる限りの部分で子どもたちにもゆるバース「はちやまる」への投票を行うことでより順位が上がることを期待しながらということで、学校に協力をお願いする旨をそこに書かせていただいております。

「報連相の徹底」というところの部分の青字の部分のところですか。ここは教育委員の皆様からのご意見をいただきたい、まだ決定ではありません。校長会の中でのフリートークの中で出た意見です。運動会の開催時期についてということで提案がありました。春開催を波佐見町は通例化しているのですが、子どもたちへの指導とか学級経営上の課題等々で、秋開催はどうだろうかという一つの小学校から提案がありました。田植え時期、稲刈り時期という農家特有の忙しさもあるでしょうし、逆に春に開催することによって学校全体の集団行動の徹底ができるというメリットもあるけれども、熱中症リスクなどのデメリットも大きいのではないかとという意見や、今のご時世9月10月は真夏なので返って熱中症対策を考えると5月の方がいいのではないかとという意見もあったりとか、昨年50周年記念関係で中央小学校が11月に行ったんですね。そしたら最高に良かったという意

見もあって、もう思い切って運動会は 11 月とかにした方がいいのではないかというような意見もありました。それぞれにメリット・デメリットがあるんだろうとは思いますが、感想でも結構ですし、今段階でのご意見でもいいですので、運動会・体育大会の開催時期について何かしらの思いを伝えていただければ大変ありがたいと思っています。

次の卒業式等々の伴奏についてということで、基本、先生方や生徒が生で伴奏するのが一番ベター、それはもう皆さんわかっていらっしゃって、それは続けていきたいのですが、職員構成によってはなかなか生の伴奏ができづらいときがあるので、CD 伴奏についても了解をいただければということで、それはやむを得ないのではないかとということでそういう話をさせていただきました。理想は生がいいとは思いますが、こういう事情もあるのではないかと話をしました。真ん中あたりが、テトルの配信についてということです。今学校が保護者の方々と連絡をする方法に「テトル」という通信方法を使っています。これはとても大変有効で素晴らしいなと思っているのですが、有効のあまりいろんなものをお願いします、お願いしますとなってしまうわけですね。学校とすれば保護者との貴重で重要な情報ツールでありながら、例えばイベントの紹介とか何かそんな問題までやると、保護者の方々がだんだんあんまり見なくなってしまう危惧もあるよねとか、逆に学校からも出て、役場からも出て、教育委員会からも出たっていうのをバラバラにもらって返って見づらいよねという意見もあって、テトルというのをもう少し制限をしながらよりよいものにしていかなくはいけないかなということで、中身について教育委員会や関係方から資料をいただいたときに学校負担にあまりならないような形で取り組んでいかなくはいけないねと話をさせていただきました。

「あすか組」の公演はとっても素晴らしいことで、これはぜひ子供たちに見せたかったという話をさせていただいて、一番下の方には総合文化会館の利用の仕方について、中学生の利用の仕方があまりよろしくない言動が見られますよという利用者の方から多くの意見があったものですから、生徒総会を開いていただいて、子どもたちが自分事として意見交換を行ってもらったのですが、今出ている結論とすれば「利用する人が注意をしましょう」というところで終わったそうです。校長としてはもう少し踏み込んだ協議の必要があるかなということで、現状、また利用の仕方によろしくない場面があれば、生徒総会をもう 1 回開く必要があるかなということとあわせて、小学生についてもルールやマナーについては徹底する必要があるだろうというところをお話しさせていただきました。

次に大雨や台風、降雪等の気象警報発表時における登下校の対応基準についてということで、特に雨の災害やこういう酷暑・猛暑あるいは台風、降雪などのときにどういう基準で臨時休校にするか、どういう基準で遅らせて登校するかというところの基準が明確に保護者の方に理解をしてもらえていなかったかなという反省のもとに、今回その基準を明確にしました。まず、町に警戒レベル 3 の高齢者避難等々の発出が検討されるときに臨時で校長会を開催し、今後の流れについて確認をしましょうという流れで、

町に警戒レベル4が発出されたときには臨時休校とします。発出されないときには遅らせての登校であったりとか、こういう基準のもとに波佐見町の学校は対応を決めていきますということを保護者に徹底をしたいなということとでしております。臨時休校等々については前日の夕方に一度テトルで配信し、変更になった場合のみ次の時間にまたテトルの再発信をしますということと、臨時休校については庁内放送で臨時休校の場合のみ放送をさせていただきますということの確認をさせていただいて、それを図式化し見やすいようにしてカラー刷りにし、配布をしたものです。

次に学校電話の自動対応についてということです。それぞれの方の働き方改革の一環であったり、保護者のカスハラ的な少し不当な、あるいは長時間の電話とかいうことに対して、学校が支障を来たす場面が少し出てきたということも理由としてはあります。併せて、先生方の対応にややよろしくない部分もあるよねというところの反省を受けて、やはり電話については有効な機能を活用していきましょうということで、まず一つ目、学校に電話をされたときにまず県立の高校と同じようにこのアナウンスを流すようにしています。それから電話の応答が始まるということで、お互いに電話に対しての構えという部分をしっかりつかみたいよねということで、この音声をまず流しますよということを決めました。次に時間帯はというときに、無作為では困りますので、一応小学校については夕方の6時まで、6時以降は音声の流れます。中学校は19時まで電話の対応をしますが、それ以降はこの電話のアナウンスが流れますということでのご理解をいただきたいということで、8月26日の2学期からこの運用を始められたらなということで計画をしているという文章を保護者の方に発出をしたところでした。

もう一つは、先ほど川田指導主事からあった夏休み体験講座の今年度の実施内容プログラムを一覧化したものを子供たちに配布をし、希望を取った一応一番最初のモデルになるデータですので参考にとということです。最後です。これはとても嬉しいニュースも、時間的には1月ほど前になったんですけど、総合文化会館で子ども食堂の活動をしていた役場職員関係者の方々が、そこにちょうど習い事に来ていた小学生が手伝いたいということで協力をしてくれたそうです。調べましたら、中央小学校の3年生でした。手伝いたいということで、笑顔で一生懸命手伝ってくれる、まずそこに感動をしたのですが、その後添付して書いてある「手伝わせてくれてありがとう」ってわざわざ手紙を添えてきてくれました。それがとっても感動したということで、名前を調べて全校の中で紹介をしていただいたということも子どもたちにとっても心温まるいいエピソードがありましたので紹介をされました。長くなりました、議事録と、校長会において確認し、教育委員さんの皆様方にもご理解ご協力を仰ぎたい情報を提供させていただきました。

これも含めてご意見、ご感想、気づき等がありましたらお知らせください。

馬場委員

運動会のことですが、東小も一回、一昨年だったと思いますが、少し肌寒いときだったのですが、ものすごく快適でよかったです。11月いいのかなって感じはしたところです。5月にするのはなかなか先生たちが大変だろうなって、いい時期で学校の行事には非常に便利だと思いますが、大変じゃないかなって思いをしたところです。こちら辺はもう学校の声でいいと思いますけれども、私はそういうふうに思いました。

森田教育長

11月から地区の行事があるよねっていうことになって、改めてこちらを先に調整しなければいけないんだけど、地区の行事が10月11月で忙しいからねってことで、子どもの健康だけを考えたらもう11月とか12月の頭で十分にできる。むしろそっちの方がいいのかなというのを思った次第であります。ここは地域の方が、学校は学校でPTAの役員さんとか学校運営協議会とも意見交換をもらっていいのではないですかって話をさせていただきました。もう地球規模は猛暑ですから、これはもうすごく根性論でいける問題でもないと思っております。はい、他ございませんか。

富木委員

夏休みでラジオ体操、各地区それぞれ一応決めてされてるのかなと思うのですが、大体平均的にどのくらい日数的にされているのでしょうか。

森田教育長

以前とはもう全く違いますね。今はもうおそらくラジオ体操は例えば最初の1週間と最後の1週間とか、あるいは最初の1週間のみとかですね、以前みたいに最初から最後までというのはもうほとんどのところでは行われていない、波佐見町だけではなくて全国的にそういう傾向にあります。その理由とすれば、保護者の方の参加がとても厳しいという理由だと思うので、一つの改善策としては前も言ったかもしれませんが、PTAに加えて地域の方々、老人クラブさんとか民生委員とかその地域の方々に参加してもよかよという人がいらっしゃったらその方々にお世話をいただくっていう「PTCA」の考え方もあっていいのではないかという思いを持っておりますが、現状的にはラジオ体操の活動は以前に比べると非常に少ないと思います。それは、プールの夏休みの開放も同じような状況です。保護者の監視が大変なので、その日数を減らして欲しいということで1週間とか2週間程度で終わるっていうところ、中央小が少し長いんですけど、大体他の学校は大体もう第1登校日ぐらいで終わってしまうっていうところが多いようですね。これも全て保護者の方々の負担増というのが大きな理由になっているようです。

富木委員

地区の会長さんに何日間実施するかとお尋ねしたところ、8月3日から10日までの6日間ということでした。どうしてですかと聞いたところ、保護者の当番が2回までなら出れるということではと言われておりました。教育長さんが言われますように、地域の方も協力していけばできるのではないかなというところもありますし、まずは子どもたちの生活リズムを持

っていくためには、やはり 6 時半に出て行ってカードを出して、地域の方にも呼びかけていった方向性ができればいいかなというようなことで今考えたところです。

森田教育長

今の現状を踏まえて、本当に町 P あたりの話題にしながらですね、「P T C A」という考え方がこれからはいいのではないかと考えています。全てにおいてその保護者の方の負担増が原因であれば、保護者の方の負担を増やすわけにはいかないのであれば、地域の方の力を借りるっていうのは多分流れだと思いますのでということではいけば、面白いユニークな取り組みになっていくのではないかとという提案型の話をしていきたいと思っています。他ございませんか。

馬場委員

今の付け加えですけど、うちの地区、中尾郷はですね、老人クラブの方が放送されて、老人クラブの人が来てくださってという話をされて、参加者は老人クラブの方が多いです。P T Aの人は放送ができないから、ラジオを持って担当者がそれを流すだけで、あとは結構周りは地区の方が多いです。登校日までっていう形で 2 週間ちょっとだったと思いますが、子どもたちはちゃんと行ってるみたいです。そういった状況になっています。

森田教育長

そういう実践例があるわけですね。地域の方が個別に指導していくという。

馬場委員

地域の方がちゃんと率先して出てくださいっていう、どちらかというと P T A も少ない状況となっています。

富木委員

交流の場にしてみてもいいかなという感じですね。

松尾委員

校長会の報告の「テトルの配信について」っていうところで、これ多分学校全部、両方テトルを使ってらっしゃるのですね。何かプランがいろいろあるのでしょうか。あれができるできない、それは多分何年か前は違うソフトを使っていたと思うのですが、何か選考会みたいなのがあってこれが決まったのでしょうか。

森田教育長

選考会というのではないかなと思います。テトルの有効性の部分があったということと、どうしてもその先は有償化という個別の対応ができるためにはどうしても有償になっているところがあるので、それについては補正予算を組もうと思っています。だから全体的なものとは個別対応の部分は有償化の部分で、そこは予算化をすることによって学校と保護者の連携を密にしたいという有効なツールとして捉えているところです。

松尾委員

何か煩雑になって、保護者が見えない可能性があることが書いてあったので、誰も多分見たことがないからってそのテトルの中身がよくわかって

ないと思うのですが、何がダメでどういうふうにしたら一番伝わりのいい伝えたいことが伝わるか、あと保護者と先生たち、教育委員会とかとどういうソフトを使ったら一番ロスが少なく、無駄がなくてコスパもいいかっていうのを何件か検討した方がいいのではないかと思います。

森田教育長

今検討については今年度から始めた部分で、昨年度末ぐらいでもとても有効であるということが逆に有効すぎるものだから、例えば役場の先ほどタウンバスのことを書いてのですが、タウンバス、商工観光の方からも謎解き云々をしたいということでテトル配信をお願いしますって持ってきたわけです。通知が確実に行くわけです。だけど、学校側とすれば、そういう企画とかの案内は学校が発信したものではないときに、保護者がどうそれを捉えるかなっていう部分の、有効なあまりにも便利な、あまりにもなんでもかんでもしてしまうと便利なんだけど、学校と地域と保護者との連携の中で軽くなれないかなという部分を危惧するところです。だからイベントの紹介とかいうのは違うよねっていう部分があったりとか逆に言うと、一本化して上からポンと入ってきた方が見やすいっていう保護者がいらっしゃるわけです。だからそこは学校と詰めて、その有償機能等を含めて、今は松尾委員さんがおっしゃった部分についてはまた確認をしたいと思いますが、野放ずにはできないかなと思っていますところす。

松尾委員

誰か管理者的な方がいて発信を選別するというか、そういうシステムはないのでしょうか。

森田教育長

学校関係はね、当然学校は管理しているけど、今のところ、役場の他の課からかかっている部分は私達教育委員会がまず一つ目の窓口にはなっていますから、教育委員会の方で精査をさせていただいて、それは厳しいので、原課の方でその資料等を作成してくださいってことを伝えたりとかしようとは思っています。全てにおいてOK、OKはかえって教頭先生の負担や学校の負担を増すようではちょっと違うと思うし、そのことによつての保護者の学校発出の文書に対する意識の薄れがないようにはしないといけないかなと思っていますので、その有効性と緊急性といいますかね、必要性というのも少しバランスをとっていくのかなというふうに思っております。

松尾委員

広報的な、町の広報的な感じのことも載せられるのでしょうか。

森田教育長

載せられます。

子どもたちに届くということで有効性はあると思いますが、逆に野放図にしますとちょっと違うかなというところがあるので、その辺り、今教育委員会の方でもこういう意見が出てたよということで、少し線引き的なものを設けさせていただいて、それは教育委員会が発出する必要があるかなと思います。他はございませんか。

富木委員

電話対応自動化ということでありましたけども、川田指導主事のところにかかってくるのも結構あるのではないかと思います。そこはより深刻なものが教育委員会の方にかかってくるのではないかと思います。

川田指導主事

教育委員会の方は特段なんか時間制限とかは設けておりません。

というのもやはり保護者からすると仕事が終わった後になってなるとやはりどうしても早くて5時半ぐらいからなるほど、対応せざるをえないなどいうのはありますが、逆に言うと教育委員会の方も自分の仕事が終われば例えば6時に失礼しますと帰りますので、終わりは終わりになるので、そこまで対応っていうのは必ずしも中学校みたいにあるというわけではないのです。

それともう一つは件数的にはどうしても少ないっていうかですね、ある程度その特定の家庭からっていうふうになるので、そこは学校とは少し違うかなと思います。ただ、何時にかかってくるかっていうのは正直わかりませんので、そこは学校と似たようなところは少しあるかなとは思いますが、だからといってそれがものすごく今負担になっているかというと、逆に各学校だよりの方でも教育相談がある場合はぜひ電話をしてくださいというふうに周知していますのでそこは踏まえて、あんまり遅くならない限りは今現状でもいいかなというふうに思っております。

山下委員

全国学力・学習状況調査結果の件で、今回の小学生の国語は「書くこと」ってところが低いということでしたけれども、対象者は変わるのですが、過去何年かでどこの領域が低かったのか高かったのかっていうのが分かればまたいいのかなと思うのですが、その点を教えていただけないでしょうか。

川田指導主事

領域的にはですね、やはり「書くこと」と、それから「読むこと」、ここは実はその隣の観点別の「思考・判断・表現」との関連がございまして、「書くこと」「読むこと」と「思考・判断・表現」っていうのは、これは今年に限らず、例年ずっと国語については続いていることであるだろうというふうに思っております。特に今年、波佐見中学校の全国学力調査の様子を見ていくと、例えば全体だったら半数以上となっています。要は昔みたいな四つの選択肢から言葉を選ぶとか、小さな枠の中に書くとかそういうことではなくて、三つなら三つの条件で決まった字数でまとめるっていう、こういうのがあるのですが、波佐見中学校の子ども、各クラス2人3人ほどもうお手上げということで、鉛筆持たずに黙って、残り30分黙ってしまっていました。だからもうその結果は教育長には事前に話をしていたのですが、実際にこの結果っていうのはそうなんだろうな、必ずしもその子たちだけじゃなくて、書いている子も条件に合わなかったり、あるいは考えがまとまらなかったりっていうのはあるんだろうなと思います。いずれにしても、「書くこと」というのは苦手かなと。「読むこと」というのは何か

といたら、ある情報を自分の中にインプットすることなんですよね。インプットして自分の中で整理して、自分の考えをアウトプットするのが「書くこと」なんです。だから必ず「読むこと」と「書くこと」というのは繋がってあって、その途中でやっていることが「思考・判断・表現」なんです。ここが厳しいっていうのがあります。

算数・数学に関して言うと今年度も出ているのですが、どうしてかなと思うのが、図形は実は苦手な子が多いようです。空間認識といいますか、頭の中でその図、特に立体ですけど描けないんだろうなと思います。だからそういったところでの苦手があるかなと。逆に「数と計算」というのは、それこそ昔の読み書き計算で、これはやることによって伸びる余地が大きくあるところかなとは思っていますので、そういった意味では、「数と計算」はもう少し頑張ってもらいたいと思っています。図形に関しては、そういった空間認識的なものが難しいのかなということと、あとは関数っていうのは意外と子どもたちの中では生活感がないのかなと思います。実はあるんですけど、二つ以上数が伴ってそれが変化していくっていうのはあるんですけど、そこはあんまり子どもたちの中にも必要感とかないのかなという感じもしますが、私の見立てとしては、図形が一番算数・数学の中では低いことが多いかなというふうに感じております。何か付け加えがあれば教育長お願いします。

森田教育長

もちろんその通りだと思います。もうここについてはもうどこの学校でも書く力と読解力の弱さ、それに伴う基礎的な部分の計算力の不足とか、言葉を知らないとか、漢字が読み書きできないとかいうところがベーシックにあるのだらうと思うときは、ここを鍛えるしかないかなと考えております。そうなったときに、「読み・書き・計算」ってのはとっても大事なんだよということも改めて分かっているところが出てきています。それプラス、その土台があった上に、活用する力とか批判する力とか、そういうことが出てくるかと思っています。今のところ特に小学校・中学校においては、基礎的な学力をまず定着させることが改めて重要だなと思っているところです。そのために低位・中位の子どもたちにどういうふうなアプローチをしていくかっていうのは、先生方全体的に考えていただきたいし、そのための様々なツールについても積極的に活用いただきたいと思っていますところ。小学校に少し改善傾向が見られたので、あとは中学校は、元々のベースは持っていますので、そこからいけば先生方に今度は頑張ってもらえればよろしいのではないかと、去年は結構厳しかったので今回は少しよかったから頑張ったなというところは正直感想としては持っておるところです。

山下委員

加えて、小学5年生と中学2年生の体力テストは、行っていますでしょうか。

川田指導主事

体力テストについては行っております。

山下委員	体力テストとその学力との関係はどの様になっていますでしょうか。
川田指導主事	その相関関係は調べたことがないので何とも言えませんが、よく昔出たのは文武両道で、特に中学生なんかは勉強をしっかりとやっている子はスポーツも、逆にスポーツをしっかりとやっている子はっていうそれもありましたけど、申し訳ありません、今のところはわかりません。
山下委員	調査の中で生活習慣とかも入っていましたので、体力測定の結果よりもその生活習慣に関する質問の内容が、何時間ぐらい寝ましたかとか朝食食べましたかとか、そういったところの方が相関関係があるのかなと思ったのですが。
森田教育長	そうですね、多分それは学力においても大きいと思います。皆様もご存知のように、生活習慣が乱れていることって子どもはどうしても集中力を欠けたりとか、あるいは授業そのものに集中できないとかありますので、そこは体力もそうですけども、学力の方も生活習慣との関連ってというのは非常に大きいかなというふうには思います。特に全国学力調査は学力・学習状況調査なので、今山下委員さんがおっしゃったように、単なる数字的な学力だけではなくて、その生活習慣だとか読書の習慣であったりとか、そういうふうなことがどう学力に結びついていくかということのを両方のデータとして得られているところで、そういう点ではある程度、波佐見の形が、もっと長崎は落ちているんだけど、ただそれが学力の数値間に繋がっていないのはどうしてなのかなっていう部分でいったときに、松尾委員さんがおっしゃる通り、勉強に対する心構えというか意識の低さが一番大きいんだろうと思っています。「勉強ができなくても…」という部分が大きいのではないかな、もっと必死に勉強することの意義とか、あるいは将来を見据えたときに、頑張らないと点数を出せないということの意識が少し低いところがあるのかな、何とかなるさみみたいなところが、田舎になればなるほど逆に大きくなっている。都会の子たちはその競争環境がシビアな部分が大きいのではないかなというところ。そこはだから結構難しいと思います。だから保護者の方も子どもたちについても、だからそういう点では目の目にクリアする楽しさを実感させるような教材だとか資料を提供することがとても大事なかなと考えます。チャレンジするとか、あるいは少し頑張れば成果が出るということの実感とかいうことをいっぱい経験させていく、学ぶことの喜びとか、そういうのがどんどんどんどん広がっていくのだろうと思いますから、先ほど「諦める前に」何かしら少しでもいいから小さなことの成功体験をいっぱい積ませていくことはとっても大事なだろうなと思うと同時に、合わせてその基礎的な生活習慣だとかいうことで保護者・家庭の協力になっていきますが、そういうのがとても大事なかなと思っております。
森田教育長	それでは、次回の8月の定例教育委員会の日程について調整いたします。8月につきましては、後だって調整をさせていただきます。以上をもちまして、本日の日程をすべて終了いたします。

令和8年8月5日教育委員会定例会会議録署名	
署名 委員	山下 祐子
	松尾 保子